

慶應義塾大学文学部心理研究室の川畑秀明教授の「心と美」についてのお話を聞きました。今研究室では旅館組合から依頼を受け、お客様が一旦予約したものをキャンセルしないようにするためのシステムを開発中とのこと。昨今はAI（人工知能）を使い、膨大なデータをビッグデータに活用していく事が注目されていますが、ここでも心理学が活用されているのです。教授のお話ですと老舗旅館ほどITの導入が遅れ気味で、馴染み客に頼りがちということ。先日訪ねた古都京都是タクシーの表示が英語のものが多く、English OK、つまり英語で京都ガイドが出来る運転手さんがたくさんいました。流石世界に開かれた観光都市の京都、国際化は東京の先を行っています。訪れた日の1週間前も世界中のルイ・ヴィトンのスタッフが一堂に会するというビッグイベントがあり、京都がヴィトン色に染まったそうです。世界の一流は東京ではなく京都に集まるのです。その中で老舗旅館の柘家は英語のホームページを持ち、同格と言われる俵屋はホームページ自体なし。対応も様々です。

本題の川畑教授のお話「美人の認知は普遍的か」、「メディアの接触経験は魅力認知に影響するか」についてです。

結論から言うと美は普遍的ではありません。時代や人種によって相当違います。私の周り

『美人の認知は普遍的か!?!』

文 朝倉匠子 text by Shoko Asakura

をみても、白人を旦那さまに持つ日本人の奥様の多くはアジア的、一重で目も細く、どちらかというと扁平な顔立ち、日本人の中では綺麗とは言われにくいタイプです。でも白人男性には正にアジアンビューティー、美人なのです。

またメディアの接触がある人ほど痩せたタイプを美しいと思うそうです。そういえばフランスでは痩せすぎたモデルの活動を禁止する法律が今年5月6日に施行されました。メディアの接触において非現実的なボディイメージを見せつけられた少女たちは「自分は太りすぎ」と自己を卑下して、拒食症などを起こす可能性が高くなります。若者だけでなく、高齢者にとっても脂肪は病気の抵抗、高年齢にとっても大切な予備パワーです。実際長生きで健康な方のほとんどが小太り！教授曰く「脳は現実を正しく認知、判断できるとは限りません。心を間違った方向に導くかもしれない。だからこそ家庭の、社会の正しい導きが大切なのです」。



『35歳からのダイエット革命 (Discover21)』
定価1,404円(税込)
好評発売中



Profile

広島生まれ東京育ち。青山学院文学部英米文学科卒業。学生時代よりコマーシャルモデルとして活躍、その後テレビ司会者や経済インタビューとして活躍し、渡米。10年間メディア活動を休止。その間カリフォルニア大学で「NPOマネジメント」及び「ジェロントロジー（加齢学）」を学び、「エイジング・スペシャリスト」として再びメディア活動に復帰。「能動的・精神的・美的加齢法」をベースに医療や心理学、社会学等最先端情報と連携しながら、多くの方々と共に年齢を積み重ねることの楽しさ、自信、そして若々しさ、美しさを育てる「アクティブ・エイジング」を提唱する活動を行っている。現在、NPO法人アンチエイジングネットワーク理事、日本抗加齢医学会正会員などで活躍中。